

文化財の見かた・楽しみ方 21 ～要小学校通学区の巻～

明治時代後半、東京の近郊の農村では祭囃子が盛んになり、各地にお囃子をかなでるグループができました。豊島区では、要小学校付近の地域にこうしたグループが誕生しました。みなさんは、それが今も語り継がれる伝統芸能となっていることをご存知ですか。

それは富士元囃子というお囃子で、現在の要町一丁目に住んでいた本橋重太郎さんが明治30年(1897)ごろ、上板橋宿(現在の板橋区中板橋・弥生町付近)で習い覚えたお囃子を浅間神社と長崎神社の祭礼で演奏し奉納したものが、代々伝えられてきたものです。この富士元囃子は、千代田区神田にある神田明神の祭礼でかなでられていたお囃子にルーツがあり、東京の祭囃子の特徴である五人囃子の形態をとって、かつて要町の一帯が農村だったころを思い起こさせる、のどかでゆっくりした笛の音を響かせます。

お囃子を支える楽器には、太鼓は「オオカワ」、締め太鼓は「シラベ」、篠笛は「トンビ」、皿の形をした金属製の打楽器の鉦は「ヨスケ」と面白い名前がついています。お囃子をリードするのは基本的に「シラベ」の役割で、稽古も「シラベ」を中心に練習し、その成果は神社の祭礼でお披露目されます。

また、お祝いの席でも富士元囃子はかなでられます。そのときには寿獅子や大黒舞なども一緒に演じられ、その場を盛り上げます。

このように富士元囃子は近代になってから誕生したものの、それ以降、地域の人々に根付き、伝承されてきました。そして平成14年(2002)にこの芸能は上演に必要な楽器・道具とともに豊島区の文化財に指定されました。

現在、月に一度、国指定重要有形民俗文化財の豊島長崎の富士塚がある浅間神社の境内で練習しています。お囃子は「シラベ」・「オオカワ」・「ヨスケ」・「トンビ」の順で習い、芸を身に付けていきます。

お囃子をやってみたい方は下記のお問合せ先に気軽にお声かけください。ぜひ一緒にお囃子で豊島区を盛り上げましょう!!



お問合せ 庶務課文化財グループ 3981-1190

大木学校施設課長の

つぶやき



我が家には高校1年生になる息子がいます。

保育園の時からサッカーを始め、小学校と中学校では地域のクラブチーム、今は高校のサッカー部で必死にボールを追いかけています。

私は息子の一番のサポーターなので、練習試合や公式戦など、ほぼ毎週応援に通っていますが、学校のグラウンドが試合会場になることが多いので、サッカーの応援はもちろん、様々な学校施設についても視察(?)することができ、一石二鳥だな～と感じています。

これからも時間が許す限り、息子のサッカーを通じて、最新の学校施設を研究していきたいと思います。

ひとりじゃないよ 相談してね

豊島区はいじめ根絶に向けて「豊島区いじめ防止対策推進条例」を制定しています。

● 豊島区教育センター教育相談

名前を言わなくても相談できるよ。LGBTなどの相談もどうぞ。

03-3983-0094

開設日時:月～土曜日(祝日・年末年始を除く) 午前9時～12時、午後1時～5時

いじめなどで困っていたら

● 豊島区子ども家庭支援センター

保護者の方の子育てについての相談や、地域で気になるお子さんの相談もできます。子どもの悩みも相談できるよ。

東部子ども家庭支援センター 03-5980-5275、0120-618-471(子ども専用)

西部子ども家庭支援センター 03-5966-3131

開設日時:月曜日～金曜日 午前9時～午後6時/土曜日:午前9時～午後5時

● 豊島区子ども若者総合相談「アシスとしま」

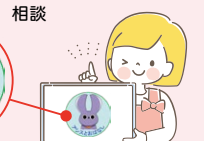
子どもからおおむね39歳までの若者の悩み、困りごとは「アシスとしま」へ!

03-4566-2476

受付日時:月曜日～金曜日

8時30分～16時30分

(祝日・年末年始を除く)



● すずらんスマイルプロジェクト

詳しくはこちら▼

生きづらさを感じる10代から20代の若い女性を支援するため、豊島区役所で生まれたプロジェクトです。どんなことでも大丈夫。あなたの“なんとなく”を聞かせてください。

